

新綿番船と新酒番船の性能について

参加費無料

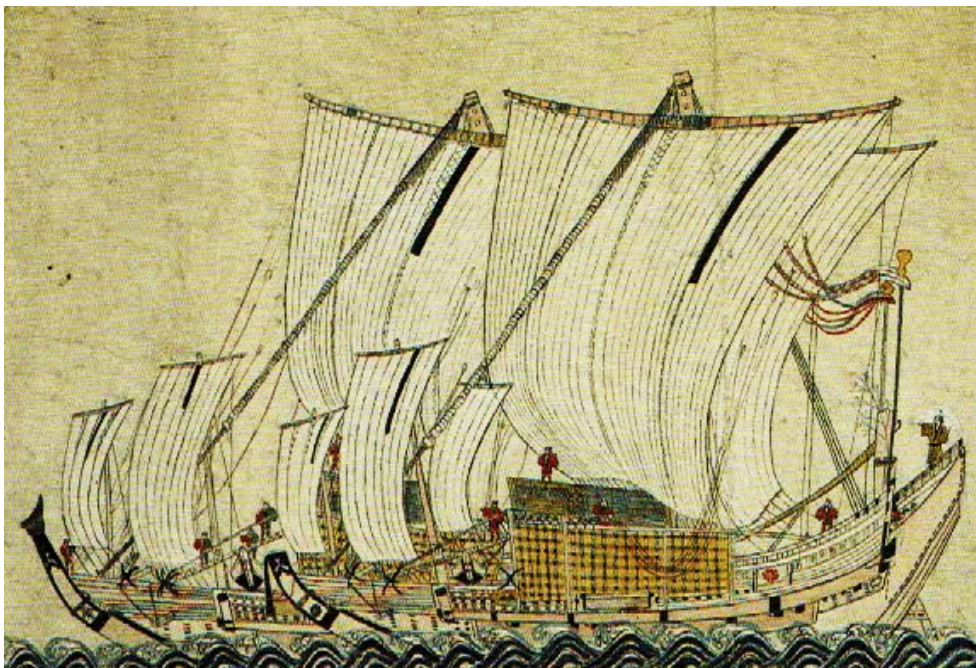
こじま りょういち
■ 講師: 小嶋 良一

2024年11月23日(土・祝) 14:00~16:00 Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)

江戸中期から幕末にかけて、新綿番船や新酒番船が運航されその速さが競われたといわれている。『和船I』⁽¹⁾によると新綿番船の速い船では上方と江戸間を50時間あまりで走破したという記録がある。平均船速7ノット(約13km/h)ということになる。また新酒番船でも早いものでは2.4日で到達した(約6.1ノット)としている。

しかしこのためには、平均12m/s程度の風速が必要である。常時このような風速が確保できたのか、その風速によってその船速が生み出したのが疑問の残るところである。またそのような風が発生した場合には相当な波浪や船体運動も生じたはずであるが、関連する細かな記録も残っていない。

ここでは、このような疑問に対して、工学的な立場から検討してみたい。



幕末期の新綿番船 (『新綿番船出帆図巻』より、南波松太郎氏蔵)⁽²⁾

■ 小嶋 良一 (こじま りょういち)
日本海事史学会会員

1948年生まれ。
横浜国立大学工学部造船工学科卒、
1974年日立造船(株)堺工場入社。
以後、タンカー、バルクキャリアー、石油掘削リグ、大坂菱垣廻船復元設計、浮体式風力発電設備などを担当。
現在、船舶海洋工学会ふね遺産認定委員実行委員会委員長。海事史学会、海事技術史研究会理事。関西設計(株)顧問。

- (1) 石井謙治『和船I』ものと人間の文化史76-1 (法政大学出版局、1995年)
(2) 南波松太郎『船・地図・日和山』 (法政大学出版局、1984年)

- 関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。メールでお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には11月20日(水)までにご連絡いたします。
- 会員にはメールでご案内をお送りしています。
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■ 申込〆切: 2024年11月19日(火) 正午(12:00)

■ 申込先: kaijishi.web@gmail.com (担当: 大野)

メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み (非会員)」として、本文にはお名前をお書きください。

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文科学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

